

モビリティの観点による震災伝承の検討

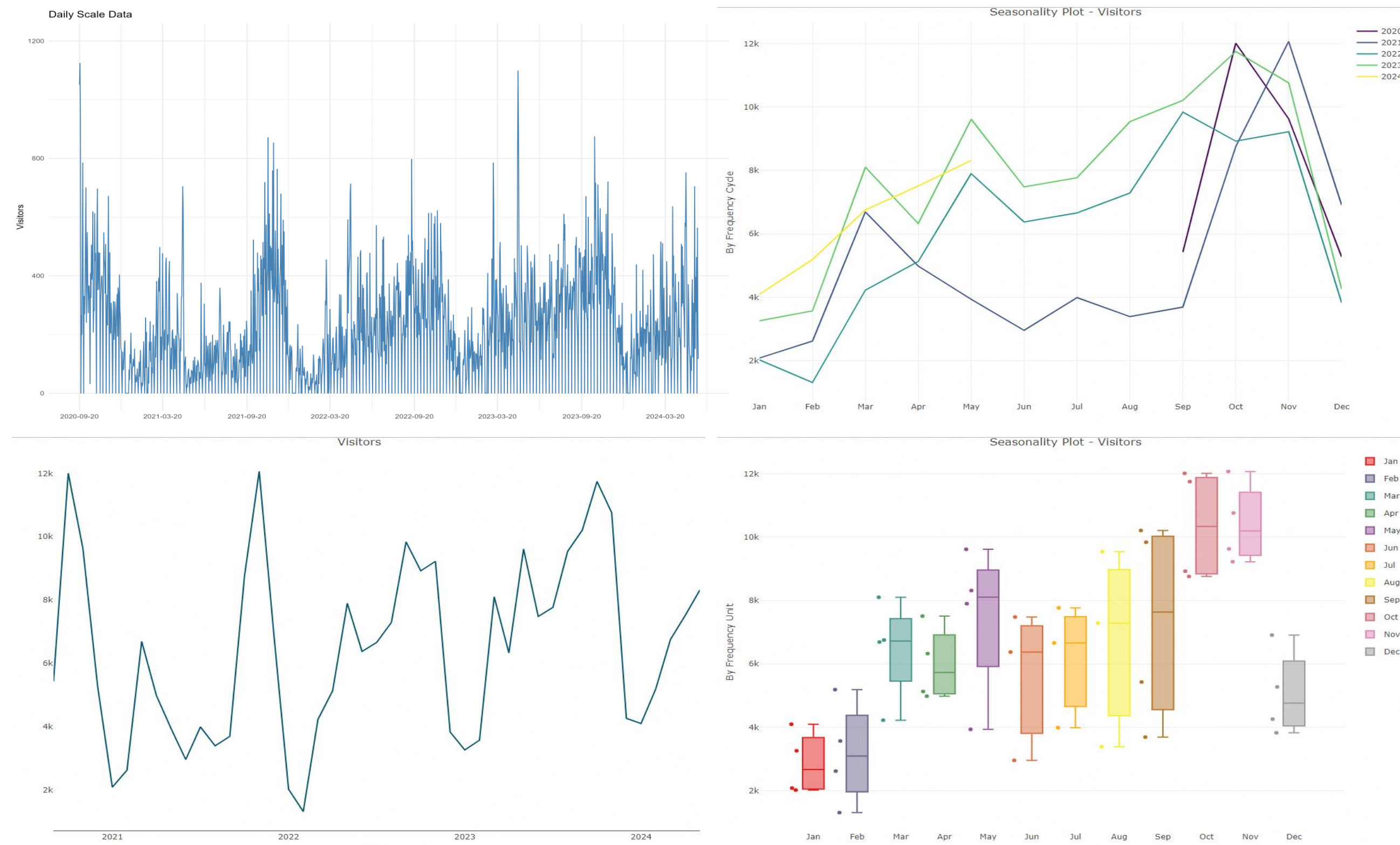
東日本大震災・原子力災害伝承館 ○山田 修司・静間 健人

被災の経験を伝える震災伝承は社会的な交渉過程のひとつであることを文献的・理論的に検討してきた。これにより避難とそれによって生じる複合的な課題を抱える福島県の状況において、インフラという視点だけでなく震災伝承にとっても、モビリティの意義と役割に注目する必要がある。県内居住者を対象にした調査を共同で実施し、定量的にモビリティと震災伝承の関連を調査・分析する。

1. 背景^[1]

人々が「訪れる」場所

- 東日本大震災・原子力災害伝承館は累計25万を越える来館者数（2023年11月13日現在）
- COVID-19への対策やインバウンドの拡大などで、訪問者の数はますます増加が見込まれる



※東日本大震災・原子力災害伝承館提供データ（2020/9/20-2024/5/31）より報告者作成

2. 場所と記憶^[2]



社会的な交渉過程～公共的な記憶実践の場所

3. 観客性と真正性^[3]

- 伝えるという震災伝承において生じる経験
- 被災者自身による痕跡の追跡と来訪者・非被災者による痕跡の追跡にある質的な違い
- 来訪者・非被災者の能動性＝震災伝承への来訪者・非被災者による参加の必要性

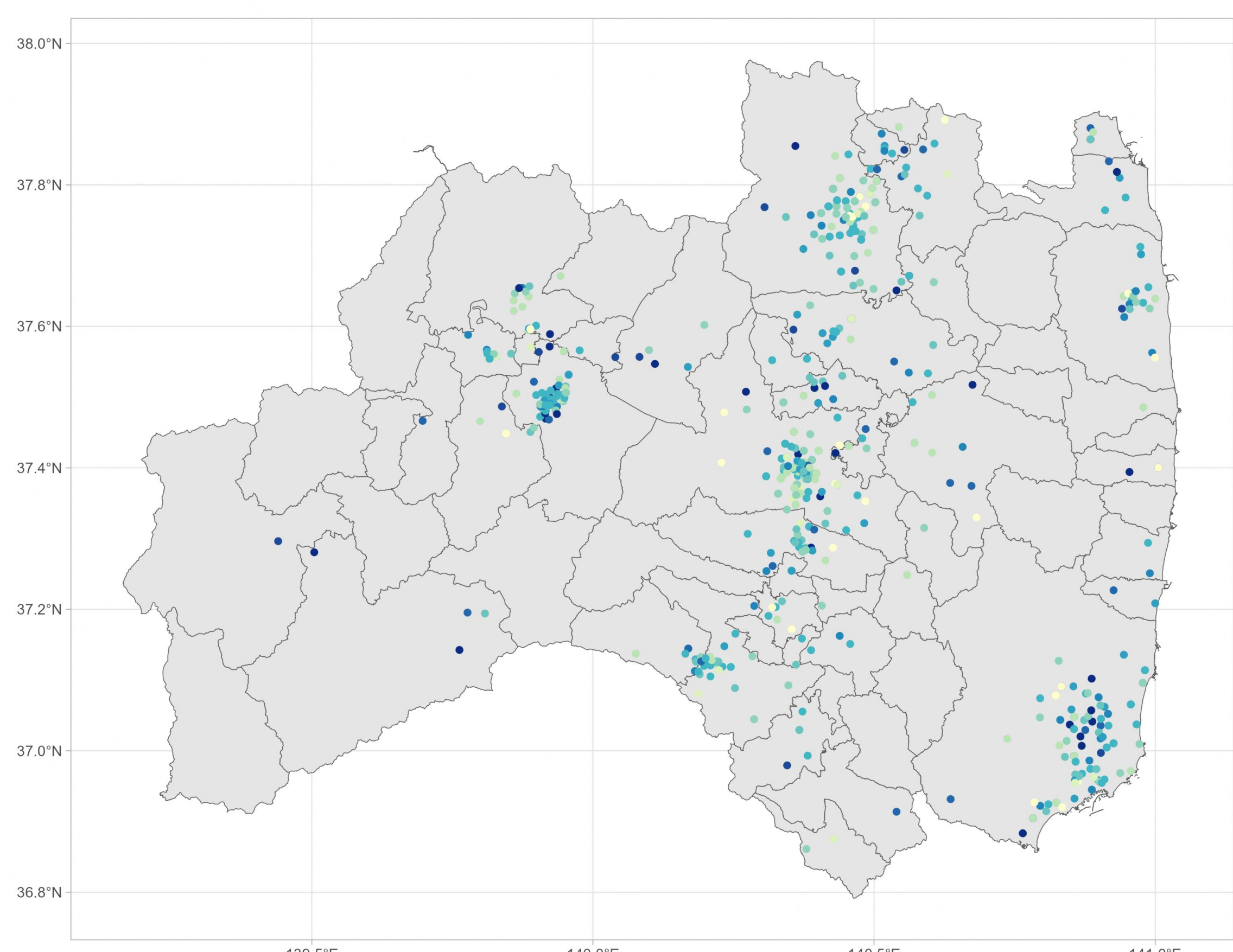
4. モビリティと震災伝承

- 福島県の状況：長期・広域の避難、継続する避難指示～人と土地との結びつきの変容
→ 非被災者も被災者にとっても「訪れる」場所
- モビリティ（移動可能性）の保証は、居住者や観光客だけでなく、震災伝承にとっても重要

福島県内の生活と震災伝承等との関係を明らかにするWEBアンケート調査の実施

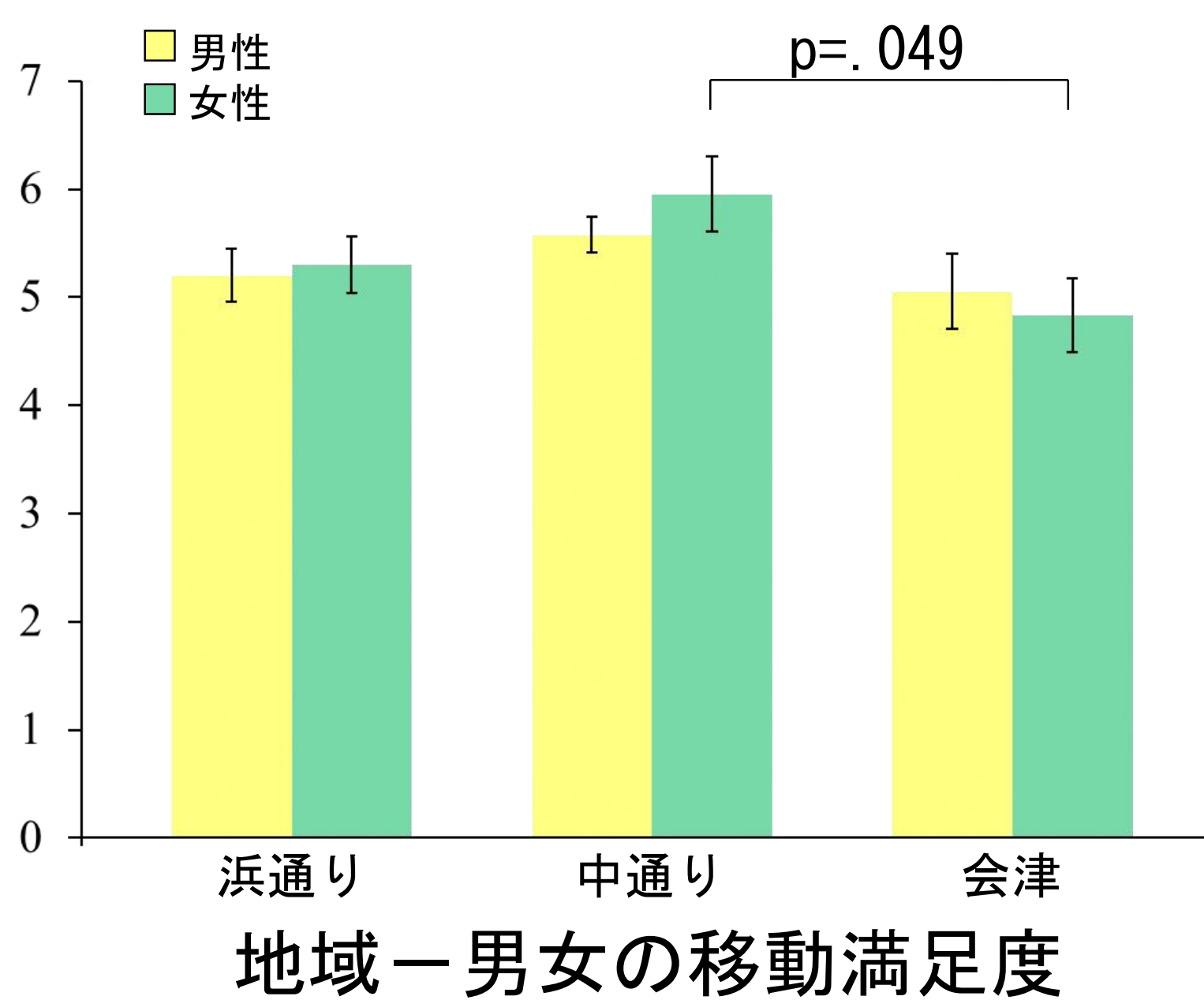
※静間健人常任研究員との共同研究

【調査会社】株式会社マクロミル
【調査期間】2024年3月13日-15日
【対象者】 調査会社の登録モニターから、浜通り・中通り・会津の3地域、性別、年齢別の人口構成比で割付
【回収数】 839 →（抽出）→ 800
※伝承館研究倫理審査委員会の承認を得て実施（承認番号：2023-02-04）



回答者と移動満足度の地理分布 (n=773)

回答された郵便番号を住所に変換し緯度・経度を取得してプロット (n=773) ※CSVアドレスマッチングサービス (<https://geocode.csis.u-tokyo.ac.jp/home/csv-admatch/>) を利用



価値観と伝承館利用意向

n=800	意向あり	意向なし	p値
東日本大震災の経験や教訓を風化させてはいけない	320 (40.3%)	454 (56.8%)	<.001
大震災で傷ついたり、亡くなったたりした人の悲しい話はあまり聞きたくない	114 (35.1%)	211 (64.9%)	<.001
東日本大震災や原子力災害についてはあまり話したくない	75 (33.8%)	147 (66.2%)	<.001
復興過程で生じた社会問題などを広く伝えることは必要だ	305 (48.5%)	324 (51.5%)	<.001
震災を知らない世代でも、大震災の記憶や経験を将来に伝える責任がある	303 (49.7%)	307 (50.3%)	<.001
新聞やテレビは、原子力災害の記憶や経験を伝える取組を十分に行っている	168 (49.9%)	169 (50.1%)	.001
行政は、原子力災害の記憶や経験を伝える取組を十分に行っている	137 (47.7%)	150 (52.3%)	.055
学校で、原子力災害の記憶や経験を伝える取組が十分に行われている	115 (47.5%)	127 (52.5%)	.108
震災伝承活動には被災地への貢献という意味が込められている	236 (57.0%)	178 (43.0%)	<.001
震災伝承活動には犠牲者への慰霊や鎮魂の意味が込められている	268 (54.0%)	228 (46.0%)	<.001

カイニ乗検定 ※共感の程度に近いものを5件法で2群に分類、SPSS29で解析

震災伝承施設にとって重要な要素

	N	M	SD	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 被災前の地域	710	2.81	0.85										
2 地震・津波の被害	737	3.13	0.86	0.745 **									
3 原発事故の被害	739	3.12	0.87	0.728 **	0.851 **								
4 地震・津波の防災	747	3.20	0.85	0.664 **	0.817 **	0.867 **							
5 原子力の防災	735	3.13	0.86	0.699 **	0.775 **	0.862 **	0.858 **						
6 復旧・復興状況	734	3.08	0.81	0.700 **	0.707 **	0.794 **	0.742 **	0.835 **					
7 語り部・ガイド	734	3.02	0.85	0.662 **	0.604 **	0.615 **	0.580 **	0.629 **	0.714 **				
8 研修・WS	718	2.68	0.89	0.540 **	0.460 **	0.492 **	0.396 **	0.476 **	0.557 **	0.696 **			
9 未就学児	719	2.83	0.90	0.604 **	0.547 **	0.561 **	0.527 **	0.540 **	0.592 **	0.609 **	0.679 **		
10 アクセス	734	2.96	0.87	0.583 **	0.637 **	0.643 **	0.628 **	0.649 **	0.653 **	0.591 **	0.537 **	0.698 **	

**p<.01 ※「重要である」～「重要ではない」の4件法、「わからない」を除いてHAD18（清水2016）によりポリコリック相関係数を算出

注 [1] 本研究は東日本大震災・原子力災害伝承館研究費、JSPS科研費23K18617の支援を受けたものである。本研究の内容は報告者個人の見解であり、報告者が所属する組織の公式見解を示すものではない。
[2] 次の拙稿を参照。山田修司（2023）「震災伝承施設における資料化とその概念的検討」『日本都市学会年報』56, pp. 193-202.
[3] 次の拙稿を参照。山田修司（2024）「観客性に注目した震災伝承の理論的考察」『日本都市学会年報』57〔印刷中〕。